

新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して生かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和5年度
9月号
令和5年 8月 28日



修学旅行と情報活用能力

校長 川島 広子

先日、子どもたちが大喜びした出来事がありました。

新治の田んぼには、絶滅危惧種のツチガエル（右写真）が生息していて、横浜唯一の生息場所だと言われています。横浜市繁殖センターでは、そのツチガエルを飼育水槽で繁殖させ、幼生（オタマジャクシ）や成体（カエル）を新治に戻す取組を行っています。昨年、繁殖センターの方が、新治小学校のビオトープがツチガエルの増殖に適している場だと気付かれて、7月に5年生がツチガエルのオタマジャクシ 1000 匹以上を放流しました。その後、観察してきましたが、生息している気配がなく、またカワセミ等の鳥たちが何かを食べに来ている様子も見られたので、うまくいかなかったとがっかりしていました。

ところが、今年7月にビオトープで大量のオタマジャクシが発見され、それがツチガエルの幼生だと判定されました。新治小のビオトープに絶滅危惧種が居付いてくれたことに子どもたちは手を叩いて大喜びしていました。繁殖センターの方が、ツチガエルがビオトープから出やすくなるように足場を作ってくださいだったので、近くの田んぼに戻り、繁殖してくれたら大成功です。

このような貴重な実体験を通じて自然を大切にする心を育める新治の子どもたちは幸せだと思います。



横浜市HPより写真引用



さて、7月2日から1泊で6年生が日光修学旅行に行ってきました。日光の歴史や自然や文化に触れ、一人ひとりが役割をもち、自分たちで考えて行動することができていました。今回は、バスの中でのレクリエーション（バスレク）で気付いた、ある変化について書きたいと思います。

これまでのバスレクは画用紙にクイズを書いたり、伝言ゲームをしたりするのがスタンダードでした。しかし、今回のバスレクはなんと iPad 端末と動画編集アプリをフル活用した新しい形のバスレクでした。何枚かの写真や動画から発想される面白いセリフをロイロノートのアンケート機能を使って事前募集し、その結果をランキングし1本の動画に編集。それをバスのモニターに映しながら、司会が音声をつけるというものでした（お笑い番組「IPPON グランプリ」をイメージしてください）。子どもたちの発想力、プレゼンテーション力の高さに驚くと共に、端末等の活用能力が身に付いていることに驚きと喜びを感じた瞬間でした。

子どもたちが社会で活躍する10数年後は、今よりさらに情報通信機器の活用能力が求められるようになります。そのため、新学習指導要領（文科省が各学校で授業を編成する際の基準を示したもの）では、「情報活用能力」を言語活動と並んで「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けています。新治小学校は「情報活用能力の育成」を中期学校経営方針の重点取組項目に掲げ、力を入れています。その一環として、iPad 持ち帰り試行校に立候補し、7月から3年生以上で家庭への持ち帰りを始めました。端末を身近な道具として活用する意識を向上させると共に、今年度から導入したAIデジタルドリルを使い家庭学習することで習熟度に応じた個別最適な学びができると考えたからです。さらには、宿題の回収や採点に時間を費やすことがなくなり、教師と子どもとが向き合う時間を増やせるというメリットもあります。反面、情報通信機器は個人情報拡散などのリスクも存在しますが、逆にそれは将来に向けた情報モラルを学習する機会にもなると考えています。子どもたちが安全に使うための情報モラル教育には学校とご家庭との連携が必要です。また、端末の持ち帰りについては改善点を把握するためのアンケート等も実施いたしますので、これらへのご協力もお願いいたします。